

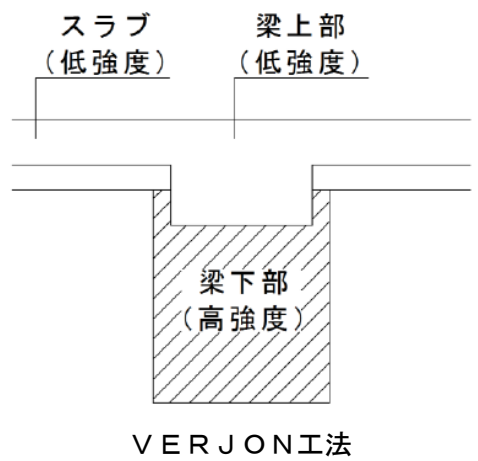
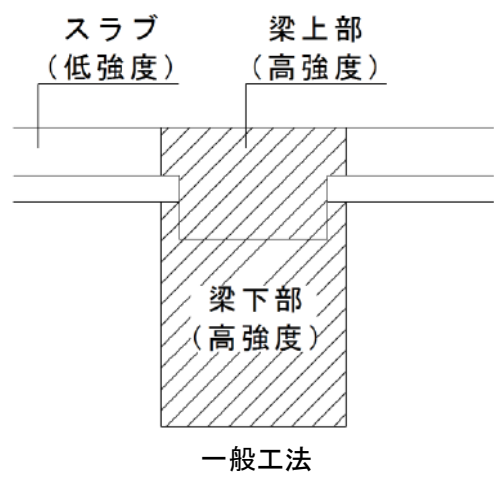
<p><b>【技術の名称】</b>                  VERJON 工法                  ー異種強度コンクリートを打ち分けた鉄筋コンクリート梁工法ー (改定)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第10-17号 改                  性能証明発効日：2014年6月17日</p> <p><b>【取得者】</b>                  異種強度梁研究会                  (代表会社：株式会社銭高組)</p>
--	---

**【技術の概要】**  
 本技術は、主にハーフプレキャスト鉄筋コンクリート梁への適用を想定し、梁上部のコンクリート強度を下部よりも低くし、下部コンクリートを打設した後、梁上部とスラブのコンクリートを一体に打設し、梁上下部で異種強度のコンクリートを打ち分けた鉄筋コンクリート梁を構築する工法である。本工法の特徴は、梁下部よりも上部に低い強度のコンクリートを用い、上下コンクリートを打ち分けても、所定の打ち継ぎ処理ならびに配筋を施すことによって、設計で期待した終局耐力および変形性能などの構造性能が確保されることである。

**【性能証明の内容】**  
 本技術について性能証明の内容は、以下の通りである。  
 申込者提案の「VERJON 工法 設計施工指針」に基づき設計・施工した鉄筋コンクリート梁は、長期荷重時に使用上支障となるひび割れ、ならびに短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起こさず、同指針で定める終局耐力および変形性能を有する。

- 【改定の内容】**  
 新規：GBRC 性能証明 第10-17号 (2010年10月13日)  
 改定：GBRC 性能証明 第10-17号 改 (今回)
- ・適用範囲の拡大
    - ・梁の内法スパン比の下限値の引き下げ
    - ・梁横補強筋と付着補強筋および打継補強筋の合計補強筋比の下限値の引き下げ
    - ・矩形梁への適用の追加
    - ・梁天端よりも低い位置に取り付いたスラブへの適用の追加
  - ・せん断終局耐力式の改定
    - ・コンクリートの等価強度を改めて設定し、これを用いたせん断耐力式の採用
    - ・打継面のずれを考慮したせん断耐力式の変更
    - ・荒川 mean 式によるせん断耐力式の追加
  - ・安全性確保のための設計式の追加
  - ・梁下部コンクリートと上部コンクリートを同日に打設する施工方法の記述の追加

**【技術開発の趣旨】**  
 従来、鉄筋コンクリート梁では、上下部には同一強度のコンクリートを打設し、梁部とその両側スラブのコンクリートが打ち分けられている。これに対し、本工法は、施工を合理化しつつ、設計で要求される構造性能を確保することを意図して開発されている。



**【本技術の問合せ先】**

株式会社銭高組 担当者：五十嵐治人 E-mail：igarashi\_haruhito@zenitaka.co.jp  
 〒102-8678 東京都千代田区一番町 31 TEL：03-5210-2440 FAX：03-5210-2462